

2017年7月13日

博報堂とウルシステムズ、 マーケティング業務改革（デジタルトランスフォーメーション）領域で協業を開始

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸、以下、博報堂）はウルシステムズ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：漆原茂、以下、ウルシステムズ）と協業し、デジタル・テクノロジーを活用した企業のマーケティング業務改革（デジタルトランスフォーメーション）を支援するコンサルティングサービスの提供を開始しますのでお知らせします。

本サービスは、「生活者発想」を自社フィロソフィーとして企業のマーケティング業務を支援してきた博報堂と、システム提供等戦略的な IT 活用において豊富な実績を持つ IT コンサルティング会社・ウルシステムズが、それぞれのフィロソフィーとケイパビリティを相互に提供し合うことで実現したものです。デジタルトランスフォーメーションを支援するコンサルティングサービス、そのプラットフォーム構築および運用サービスを提供します。

博報堂はこれまでも、デジタル化の進展によって入手可能になったリアルタイム×365日の生活者の情報行動・購買行動のデータを「生活者データ」として活用し、総合広告会社として積み重ねてきたプランニング力と独自のクリエイティビティとを掛け合わせることで、顧客理解から行動デザインや顧客育成にまで踏み込んだデジタルマーケティング施策を数多く提供してきました。博報堂の持つこれらのデータ・プラットフォーム(生活者 DMP)を、クライアントビジネスのさらに根幹に近い機能として活用するべく、このたび、業務系システム等との連携によって生成される大規模データを高速処理することが可能で、かつ安定的に稼働するデータ解析環境「White-eYe」を持つウルシステムズとの協業に至りました。

ウルシステムズは、これまで金融・証券の発注系システムや基幹業務システムなど、企業にとって必要不可欠なシステムを多数手掛け、また、インメモリーによる超高速処理や大規模トランザクション処理、ビッグデータ分析など最先端の IT をいち早く市場に導入してきた実績のある IT コンサルティング会社です。White-eYe は、Amazon Redshift を活用した拡張性の高いフルスタックデータ分析環境で、本件の大容量かつ多様なデータを柔軟にシステムに取り込み高速に集計・分析が可能で、高い信頼性が求められる案件に適合するソリューションとなります。

博報堂は、ウルシステムズとの協業・サービス提供を通じて、マーケティングを中心に事業全体を見渡した業務プロセスの最適化と情報システム基盤の企画・構築を共同で支援してまいります。